

平成24年度第3回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成25年1月17日(木) 午後5時48分～6時50分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

議題 (1) 第2次読書のまち八王子推進計画について

報告事項 (1) はちおうじ読書の日記念講演会について

(2) 平成24年度図書館まつりについて

(3) その他

出席者氏名

委員 三浦 眞一 山崎 久道 三塚 久美子 鈴木 康弘
谷口 葉子 中村 和也 森岡 庸浩 斉藤 和巳
常盤 義輔 草刈 あずさ

欠席委員 小平 有紀 吉澤 淳 黒田 八千代 豊田 亘男
辻井 睦 森田 聖二

事務局 穂坂中央図書館長 中村生涯学習センター図書館長
遠藤南大沢図書館長 福島川口図書館長
中央図書館 樋口主査
生涯学習センター図書館 阿部主査
川口書館 平井主査
南大沢図書館 新井主査 嶋崎主査

傍聴人 0 人

会議録署名委員 谷口 葉子

開会

事務局(福島川口図書館長)～ 本日はお忙しいところ平成24年度第3回読書のまち八王子推進連絡会議にご出席いただき誠にありがとうございます。わたくし、教育委員会川口図書館の福島でございます。よろしく願いいたします。それではこれより読書のまち八王子推進連絡会議の進行を三浦会長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

三浦会長～それでは、あらためましてあけましておめでとうございます。去年

中は大変皆様方にはお世話になりました。ぜひ本年もあえて、最初の席でございますのでお願いをする次第です。それでは本日の会議を進めさせていただきます。

本日、過半数の委員さんのご出席をいただいておりますので有効に 成立していることをご報告申し上げます。小平委員、吉沢委員、黒田委員、豊田委員、辻井委員、森田委員は所要のためどうしても出席ができないというご連絡をいただいております。

なお、傍聴人は0人です。

また会議録の署名委員ですが、谷口委員にお願いいたします。

(谷口委員の了承があった)

三浦会長～それでは会議資料の確認をお願いします。

事務局 (新井南大沢図書館主査) ～おそれいりますが、お手元の配布資料の確認をお願いします。

一番上に平成 24 年度第 3 回読書のまち推進会議次第がございます。

資料 1. はちおうじ読書の日記念講演会について

資料 2. 平成 24 年度図書館まつりについて

参考資料として

・らいぶらりい - 八王子市図書館報

以上ですが、不足などがありましたらお申し出ください。

(資料の確認が行なわれた)

三浦会長～資料の確認はよろしいでしょうか。

それでは会議に入ります。

議題 1 「第 2 次読書のまち八王子推進計画について」、進行状況を事務局から説明をお願いします。

事務局 (福島川口図書館長) ～それでは第 2 次読書のまち八王子推進計画の進行につきましてご報告申し上げます。進行計画では、具体的な取り組みといたしまして 103 項目をかかげてあります。そのなかで、優先順位が星印で表記をしております。星三つが優先順位が高いものでございますけれども、これにつきましてはすでに平成 23 年度に進行管理をしております。今回は、星が二つ中では、今日議題に挙げるものを何点か選んでおりますのでご説明をさせていただきます。まずそれでは、図書館からご説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局 (樋口中央図書館主査) ～説明に入ります前に、今回お渡ししました資

料の第 2 次読書のまち八王子推進計画の取組状況・取組予定の資料でございますが、こちらのナンバー 50 の団塊の世代等へのアプローチの取組状況につきまして、前回の会議の際にお渡ししました内容と異なっておりまして、というのは、こちらの項目につきましては子ども読書活動推進計画の中の取組に入っている項目であります。前回お渡しした資料の取組状況につきましては千人塾を PR し大人の調べ学習のような、図書館へ興味を持ってもらう事業として継続してゆくというふうな内容になっておりまして、これは子どもの関係ではございませんので、今回、訂正をさせていただきます。今回お渡しした資料の取組内容ということで説明をさせていただきます。

それではご説明をさせていただきます。図書館ボランティアの育成。ナンバー 50. 団塊の世代等へのアプローチの取り組みについて説明をさせていただきます。子どもの事業についてはおはなし会やブックスタート、三歳児検診など数多くの事業を図書館のほうで実施しております。図書館職員だけでは実施が困難なことから多くのボランティアの方に協力をいただいております。とりわけ、ボランティアの中核をなす、本日はご不在でございますが、豊田さんを会長といたしました八王子市図書館ボランティアの会は団塊の世代を中心に平成 24 年 4 月現在で、72 名の会員がおります。様々な活動を行い、図書館事業にご協力をいただいておりますが、その中で、15 名の読み聞かせ担当という方々がおりまして、児童サービスを担ってくれています。平成 23 年度は、中央館でおはなし会を 23 回実施し、369 名が参加されています。また、保健センターでの 3 歳児検診読み聞かせも 28 回実施し、1,333 名の方が参加されました。そのほか、図書館に協力してくれています団塊の世代を中心としたボランティア団体として、糸の会という会がございまして、6 名の会員で構成されております。こちらの団体は、東浅川保健福祉センターでの 3 歳児検診読み聞かせを平成 23 年度で 20 回実施し、1,123 名が参加しました。このように多くのボランティアの活動の活動により、幼児児童に対する図書館サービスの充実が図られております。図書館にとっては、団塊の世代といわれる方の協力が不可欠となっております。この取り組みについては、二つ星の扱いとなっておりますが今後はボランティアで活動していただく人の数を増やす働きかけを行うとともに団塊世代の方が前向きにボランティア活動に取り組めるように環境整備を行い、児童サービスの充実をさらに図っていきます。説明は、以上でございます。

三浦会長～はい、ありがとうございます。後半の部分につきましては、草刈委員がお見えじゃないんですが、どなたかご説明いただけますか。

事務局（福島川口図書館長）～二つに分けて草刈委員からご説明をさせていただきます。

三浦会長～学校教育上の、読書に関する問題には、草刈委員が学校教育部の指導室ですので、お見えになりましたら、ご説明をお願いをします。今の、どちらかというところ、図書館を中心にした部分の、特に図書館のボランティア活動を中心にした部分のご説明をいただいたわけですが、これにつきまして、ご意見ご質問などありましたらお願いします。

山崎委員～大変たくさんの方、回数も多く開催されて、非常によかったと思うんですが、数字的にはわからないですけどもご覧になっていて、どのような企画が受け入れられていたというようなことがございますでしょうか。本の内容とかで結構なんですけど、印象で結構なんですけど、どのような本とか、どのような企画とかが受け入れられたのか、が、ちょっとあれば聞かせていただきたいんですが。

特定のものでなくても、何か傾向を。どんなことか、具体的なことがわからなかったの。

事務局（樋口中央図書館主査）～子供が小さいですから、親御さんに話しかけるわけなんですけれど、自分の経験とか、を活かして、わかりやすくというか、本の読み聞かせにしても、丁寧にゆっくりと話をしていただけのようなことが印象に残りました。読み聞かせについても、語りかけるというか、なかなか経験をしていかないとできないということだと思いますが、そういったことが見た目でも感じられるということです。

山崎委員～たとえば、読み聞かせのボランティアの方が複数回、何回もおやりになるとか、今のお話だと、だんだん習熟してこられるとか、そういうことってあるのでしょうか。それとも非常に広い範囲の人が一回か2回ずつやるのでしょうか。

事務局（中村生涯学習センター図書館館長）～図書館ボランティアの15名の方がということになってはいますが、回数も自分たちで決めて、なかで、自分たちで、この本はやはりよかったということをお勉強しながら、まったく勉強しないで、みんなの前で読むということではできませんので、そういうことを教育しながら、ある程度均等になるような形で、それぞれ出ていただいております。ですから、一人の方がずっとということではないということになります。

山崎委員～たとえば、読む本の内容とか、どれを取り上げるというのはボラン

ティア同士で相談されるのですか。図書館がアドバイスされるんでしょうか。

事務局(中村生涯学習センター図書館館長)～その内容によるのですけれども、図書館の児童担当と相談をしながら、この時には、こういう本を読もうと、相談をしながら、一番子供が受けてくれる、こういう本が今までの経験上、子供にいいというような本を、自分の経験を通して読み聞かせをしていただいているというのが、多くあります。

三浦会長～資料がこれだけなので、質問もしにくいのだらうと思いますが、前回、配付をしていただいた資料の中に、同じような形のものが載っておりので、先ほどの説明と合わせて、もし、次回でも結構でございますので、ご質問がございましたらば、お寄せを頂ければという風に思います。

森岡委員～確認なんです、ここに書いてある、71回の2,825人というのは、今おっしゃったトータルの数でございましょうか。

(事務局)中村生涯学習センター図書館館長～これは、合計です。

三浦会長～人数の問題というのは基本的には物理的な問題で、実際に行われた中身がどうだったかというのが大変重要なんだらうと思うんですね。もちろん大勢参加していただくのはありがたいことなんです。中身について、充実度をどうやって図っていくかということが重要なことだと思いますので、その辺の研究、検討につきましては、今後もつづけていただきたいと思います。

それでは、後半の学校教育関係のものにつきましてご説明をお願いします。

草刈委員～資料が三部あります。1号、2号、3号。では、では、まず、54番、56番と学校図書館読書指導員の登録の呼びかけと拡充ということですけど、指導員の登録は今年度も引き続き呼びかけているところです。年間を通じて登録用紙というのは送られてきています。ただ、読書指導員という名前で登録はしていなくても実際に学校でボランティアをしていただいている方もいますので、名称にこだわらず、実質的な活動をしてくださる方の拡充を目指しているというのが、今年度の、また引き続いての活動となっています。それから、学校図書館サポート事業の重点校について、ボランティアがまだ組織的に出来上がっていない場合はなかなか環境の整備も整いませんので重点校になったことをきっかけにボランティアさんを改めて募集するという学校もあります。58番の司書教諭学校図書館読書指導員等の研修についてですけども、今年度もニーズに応じた研修会ということで、司書教諭の研修

会では、学校図書館のマネジメントですとか実際の学校の活動を取り上げて研修を行っています。学校図書館読書指導員の研修は毎年行っています。読み聞かせの研修会は小学校向けと中学校向け、それから、今年は特に科学の本を読み聞かせをするという新しい取り組みで、絵本ではないものというチャレンジもしています。

ニーズが高かったものとして、本の修理の講習会を行って、希望者も多かったので、午前と午後と2回に分けて行っています。最終回で来週ありますけれど、サポート事業の実践校の実践発表会を行う予定になっています。続いて59番の指導の重点（教育課程）への読書活動明記ということで、教育課程という学校のカリキュラムの作成にあたって各学校の取り組みが充実するように今年度も働きかけをしています。来年度の編成に向けても同様に児童生徒が進んで読書を行う態度を育むための読書活動を推進するという取り組みを各学校でするようにということ働きかけています。続いて60番の校内体制の整備、学校図書館の充実です。検索システムの導入というのが今年度の取り組み予定になっていて、7月くらいから稼働ができるようになっていきます。8月から説明は行ってきてはいるんですけども一月から研修を具体的に進めていく準備が整ってきています。

それから今年度は図書の追加購入ができることになりましてその費用を有効に使うということで、今年は教育センターで図書の展示販売を行ったり、ツールアイエスというシステムが導入されていますので、それで購入したい本を検索して学校が調べ学習に使える本を買っていることができるようになっていきます。69番の読書活動取組事例等データベース化ということですけども、特に各学校に資料を作ってくださいということは行ってないんですけどもお配りした「としよえもん」の中には重点校の取り組みというのをちよつとずつでも毎号、中の開いたところで、お知らせをしています。「としよえもん」は各校に十五部ですけど配付をして、今年は三号したということです。ここには載っていないものですけども、学校図書館サポーターの派遣を今年度九月から始めたところですけども各学校でもオリエンテーション、図書館の使い方とか、オリエンテーションはあらかじめ終わったところで授業の支援も徐々に始めてきています。派遣がされている学校については割と好評です。まだうまく使いきれないという実態もあって、年度の途中からだったので、学校のほうも受け入れる体制が整っていませんので、本格的には次年度からの計画的に運用していくことになると思います。以上です。

三浦会長～いま、縷々ご説明いただきました内容について、ご質問、意見などありましたら挙手をお願いいたします。

三浦会長～先ほど、今年度は図書の追加購入が可能ということですが、どのくらいの金額でしょう。

草刈委員～学校によってですが。

鈴木委員～60番の後半の部分に、重点的に蔵書の購入を行えるようにと書いてある通り、標準蔵書数に満たない学校にかなり手厚く、予算が配当されました。本校の場合は、これだけかい、ということでした。それでも、平均すると、一校当たり20万円強くらいですかね。通常、各学校で図書を購入するのに使える配当予算はうちでいうと40万円くらいしかないので、5割増しということになりますから、ありがたいことではあります。

三浦会長～これは、財源は文科省、八王子市。

草刈委員～市です。

鈴木委員～市の光熱水費ですね。

草刈委員～節電関係

三浦会長～の充当をしたということですね。

草刈委員～はい。

三浦会長～行政のほうもいろいろ御苦勞なさって節電をさせていただいているようですので、本当は国あたりがしっかり予算をつけてくれるといいんですけどね。

山崎委員～節電の費用というのはどういう意味なんでしょう。

穂坂委員～各学校でこの間の震災の関係で、それぞれ、当初の予算から、それぞれ節電させていただいて、その分予算が余ったというか、その部分を財政のほうで、市の当局のほうで、学校のほうの図書に、せっかくこの学校で節約してもらったお金を図書のほうに、今足りないという状況があるので、使っていいですよということになったんですね。それで、各学校にこれを配当したということです。

山崎委員～これをちょっと伺ったのは、非常に素晴らしいことだと思ったからなんです。なぜかともうしますと、前にも私ちょっと申しあげましたけれども、それは単なる費用の振り替えの話ではなくて、つまりエネルギーというのは使ってしまうと終わりなんです、一過性のものなんだけれども、本を買って学校図書館に配備すれば、子供たちの心に対する投資なんです。あきらかに。将来的な投資なんです。だから明らかに一過性の費用を将来的な投資に振り向けたということなので、これはやはり、市の財政的に考えても、大きく言えば、非常に大きな

ことだろうとわたくし思うんです。だから、ぜひそういう風に八王子市がなっていけばもっともっと図書館がよくなる。その費用は、その考え方で図書館もあるわけですよ。まさにね。だから、単なる費用の振り替えの話ではなくて、全然別の種類のお金の使い道をしたのであると。いうことではないでしょうか。私はそんな風に思いますね。

三浦会長～ちなみに公共図書館のほうも節電は、電力会社からの依頼もあってしましたよね。そこで余った分は図書購入には回してもらえなかったですか。

穂坂参事～図書館の分としてはなかったんですけども、各学校でご努力いただいて、節約していただいた部分の一部を、いま、中央図書館で学校専用に貸し出す本がそなえてあるんですね。そちらのほうに一部を充当させていただいて、学校のための本を購入いたしました。これは、一つの学校で本を買っても、その学校だけの活用になってしまうということがあります。中央図書館に置いておけば、いろんな学校で使えるということで、図書館で、そういう形で学校の支援をしてるんですが、そちらのほうの図書の購入にも当てさせていただきました。

三浦会長～ありがとうございます。何かご意見ございますか。

中村委員～60 番の蔵書数が不足している学校について、重点的に蔵書の購入を行うと書いてあるんですけど、単に蔵書数だけじゃなくて、蔵書の状態とというんですかね、40 年以上も前で、何かタイトルもよく読めないような、かすれてしまっているような本がぎっしりと一万冊揃ってますというのでは、冊数だけそろってるだけでは何の意味もないので、その状態を見て、この状態でひどいなというところは、蔵書数があったとしても廃棄させてその分ドカッと入れるとか、そういうような、内容まで判断したうえの購入ということもぜひ検討していただきたいなと思うんですけれども。

草刈委員～その前の年にデータベース化するにあたって、バーコードを張る作業の時に昭和の時代買ったきり、次に開いたのはいつなかわからないくらいの本についてはかなり廃棄したという学校もありますし、また、蔵書数がかなり減ってしまうので、捨てきれずにとっていたという学校もありますけれども、廃棄はここ数年で進んだうえで買ってます。ただ、歴史の学校とできてから年月の浅い学校は蔵書数がどうしても違いますので、その辺は不平等感もあるかもしれませんけれども、どの学校も蔵書は 100 パーセントをめざしていくというところを考えています。古いものは捨てていって、また足りない分はできるだけ買えるようにしていきたいという希望は持っているところです。

中村委員～蔵書数だけに縛ると、古いものでも置いとかなくちゃいけないという面があるんで、かえって新しい本が入ったとしても古い本の間に入ってしまうとその本が死んじゃうんですね。だから古い本というのはあることは、逆に害になっているような感じがあって、前、私は山田小の図書館ボランティアをやっていた時に学校図書館サポーターが来てその助言があって、前から、古い本を捨てるとなると半分ぐらいに減ってしまうなあと思ったんですけど、図書室が、高学年用と低学年用に分かれてたんで、高学年図書室を整理して 4,000 冊ばかり廃棄しました。13,000 冊あったんですけど、それが 9,000 冊になりました、児童の数からいったら大体 10,000 冊が妥当なんです。1,000 冊足りなくなったんで、その分は、PTAが寄付とか、保護者から寄贈してもらったりあるいは、学校のついた予算で多少買ったりして、かろうじて 10,000 冊にしたんですけど、低学年図書室は相変わらず昔の儘で、そこまで整理するとなると、基準に満たなくなってしまうんで、捨てるに捨てられないで、バーコード化した時もほとんどそのままの状態なんです。これは何とかしていただきたいなあという思いがあります。

三浦会長～今後の施策の一つとして、こういったご意見があったということでお取りあげいただきたいと思います。ほかに何かご意見は。

三塚委員～子供の、今通っています中学校が、長男の入る前は3クラスで、長男の入った年に4クラス、その次は5クラス、その次は、今、6クラスとどんどん増えている状態なんですね。最低必要な本というのがそれぞれの学校にあって、まずそれを満たさなければいけないと思うんですけど、生徒の数に応じて特にそういう風に増えている状況のようなときには、考慮の一つに加えていただけるといいかなと感じました。

三浦会長～そういう余剰金が出たことによって購入できた本というのは、たとえば図書室のこういう本が、新しく入ってきましたというようなことを子供たちにPRできるような手法があってほしいと思いますよね。たぶん子供たちも新しい本を借りたがるという傾向があるんだろうと思う。だからそういったものもぜひ学校にご指導いただいて、こういったものを新規に購入されて、今図書室にありますということをお子供たちに、子どもたちが図書室に行ったら探すんじゃなくてこういうことが入ってきてますよということを教えてあげるようなそういった指導の在り方でやってほしいと思うんですよ。

山崎委員～今回学校図書館関連のいろいろな取り組みをされて、今の蔵書の

充実はもちろん必要なんですが、それと同時に学校図書館の運営という、マネージメントの話、研修をされたりいろんな、多面的に、読書指導員であり、司書教諭がいてですね、そういう学校図書館を運営する核になる人というんでしょうか、それがすごく重視されているのはとてもいいことだと思いました。ただ、非常に難しい面があって、なかなか図書館に子供たちを呼び込むのが難しいところがいろいろあると思うんですが、ある調査で、例えば、こういうデータがありましてですね、1995年と2010年を比較してみると、1995年の時点では10代の男の子と女の子、10代の男子と女子では読書をする時間は女の子のほうが倍ぐらい長いんですね。ところが2010年になると、それが全く逆転をしましてですね、男子が女子の倍になっている。つまり、その分だけ10代の女子の読書時間が減っているんですよ。私はどうも余り高校生に詳しくないんでよくわからないんですが、たとえば、そういうことの背景に何があるのか、女の子のほうがインターネットをよく使っているか、知らないんです。わからないんですけれど、たとえばそういう風なこともありますので、やっぱり10代の時に図書館で本を読ませるということはものすごく大事なことで、もちろん情操教育上も大事なんでしょうけれど、図書館のシステムというのは大きな図書館でも学校図書室でも同じなんですよね。蔵書を整理して、配架して、そして検索できるようにして、読んで、という風なシステムは全く同じなんです。だから、学校図書室をきちんと使える人は、大きくなって大学生になって自分で文献調査をしたり、あるいは外国の図書館にいったって、別に大して難しくなくできるんですね。そういう意味での図書館を使う予行演習的な意味もあるので、私は学校図書室って、図書館全体にとってすごく大事だと思っているんです。そういう意識をぜひ持っていただいて、学校だけの問題ではなくて図書館全体の中で学校図書室がまさにスタートラインにあるわけです。そのスタートラインをきちんとやれば八王子の図書館全体の底上げにつながることは間違いないだろうと思うんですね。

三浦会長～先ほど、69番ですか学校図書館サポートだより、これは紙に印刷したものを発行しているということですね。各学校の読書活動への取り組みというのを、学校によって多少やり方が違うんだと思うんですね。そういったものを、一括でネットで見ると、Aという学校がほかの学校の、あるいはBという学校が、ほかの学校の事例を見るようなことというのは、やはりホームページ化しておくというのはいろんな学校のがみられて、非常にいいんだろう。印刷物というのは字数も、

載せる写真も数が限界がありますから、いつでも先生方が、あるいはお母さん方が、あるいはお父さんも見ることができる、PTAの方たちも見ることができるというようなホームページ化というのは、必要な気がしますね。それによって、ああ、なるほどこちらの学校ではこういう手段を、こういうことをやってらっしゃるのかと。それは、うちの学校では、まだやっていないから導入してみようとか、その成果をその学校に聞いてみようとかということができるときかけになるような気がするんですね。ぜひそういったせつかくの情報ですからより広められるような方法をご検討いただければ、手打ちで打ったものほど難しいことではないと思いますので機会があったら検討していただければありがたいと思います。

ほかにございますでしょうか。よろしゅうございますか。

もし、皆さん方が、お帰りになりまして、前回お配りを頂いた資料と、照合等をしていただいて、ご質問等々がありましたら、事務局のほうにメールでも結構でございますので、問い合わせを頂ければ、次回の会合の時に各部署からお答を頂くという形を取りたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、報告事項に入らせていただきます。報告事項につきましては、まず、八王子読書の日記念講演につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局（新井南大沢図書館主査）～ 八王子読書の日記念講演会の結果をご報告いたします。別紙資料の1番になります。八王子市図書館では、10月27日の「はちおうじ読書の日」を記念いたしまして、11月3日文化の日、中央図書館におきまして、直木賞作家志茂田景樹氏を迎え、「読書の魅力再発見」と題して、講演会を開催いたしました。講演会は、10月1日号の広報に定員140名で募集をいたしましたが、145名の応募がありました。全員当選といたしまして、来賓を含めまして159名参加予定でしたが、当日133名の参加でございました。講師の志茂田景樹氏はツイッターでの人生相談が評判とのことで、講演も、志茂田景樹氏の感動した本「紫苑物語」に対する思いや、読書の仕方など、熱い気持ちを語っていただきました。別紙資料の後ろにあります、アンケートにつきまして、93人から回答を頂きましたが、9割以上の方からよかったとの感想を頂きました。以上です。

三浦会長～つづきまして、平成24年度図書館まつりにつきまして、ひきつづきご説明いただけますでしょうか。

事務局（新井南大沢図書館主査）～それではナンバー2番図書館まつり事業報

告でございます。

まず、1番です。10月27日中央図書館視聴覚ホールにおきまして、八王子朗読の会“とどろび”により開催した秋の朗読会で、78名の方に耳からの読書を楽しんでいただきました。

2番ワークショップでございます。11月3日と4日に、図書館で活動している各ボランティア団体などが、日ごろの成果を発表するワークショップが行われ、829名の方にご来場いただきましたここではさまざまな展示、体験、実演コーナーがあり、実際に体験に参加された方の笑顔や、興味深そうに展示をご覧になっている方で、にぎわいました。

3番です。10月26日から10月29日の間に、中央図書館、南大沢図書館、川口図書館の各図書館で、古くなった図書、雑誌のリサイクルを実施し、全館合わせて、13,981冊の図書、雑誌を多くの方に手渡すことができました。

4番、読書感想画コンクールにつきましては、八王子駅南口にある、八王子駅南口総合事務所で、10月26日から11月11日に、読書感想後コンクールの入賞作品の展示を行いました。今年は応募総数454点ございました。子供たちが読書で得た感動や、感想を絵で精いっぱい表現してくれました。以上です。

三浦会長～今、八王子読書の日の記念講演の内容と、図書館まつりの内容につきましてご報告を頂きました。これにつきまして何かご質問ございますでしょうか。あるいはご意見でも結構でございます。

どなたか皆さん方でご覧になった方はいらっしゃいますかね。

谷口委員～読書感想画コンクールですね、行ってきました。ここで見せていただいたんですけど、ほんとによかったな、というか、ああいう形で、皆さんにお知らせすることができてよかったなと思いました。

鈴木委員～本校の生徒も一人入選をしたので、それもあり、見に行きましたが、南口総合事務所の場所が、あそこまで上がって行って、わざわざ見るためにという感じではなくて、私が行ったときはもう最終日だったんですけども、ほとんど見てらっしゃる方がいなくて、独占状態で、長時間見てまいりましたが、もうちょっと人の通りが多いところっていうかな、そういうところに展示してあげたいな、せっかくの作品なので、という風に思いました。

三浦会長～私も、過去の発表でもそれは感じていることで、どちらかというところあんまり人が来ないところに飾ってあるという、予算等々の兼ね合いもあってそういうところを選ばざるを得ないところもあるんでしょう

けれど、できれば子供たちの絵を、どうだという場所へ見せてやっていただくような飾り方といいますかね、場所といいますかね、そういったものを今後の課題にして、ご検討いただければ大変ありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(事務局) 中村生涯学習センター図書館長～さっき、ご説明の中で、抜けている部分があったんですけれども、感想画コンクールにつきましては、今までの入選作品、これはすべてホームページの中でご覧いただくことができます。ただ、一回目、二回目につきましては、冊子になっておりますので、これは載っていません。四回目以降のものが、今回の八回目まで、全部作品がご覧いただけます。現物に比べると小さくて、ちょっとわかりづらいかもしれませんが、感動は伝わってくると思いますので、ぜひとも図書館のホームページでご覧いただければと思います。それからもうひとつ、予定なんですけれども、去年、おととしと2回小P連で行っています八王子読書のまち推進コンクールの入賞作品と、図書館の感想画の入賞作品を合わせて図書館の中で展示するというを行っています。今年度も、2月に入りまして、中央図書館で、「手作りの本」というのがあります。その中で、壁面をひとつ使いまして、入選作品だけ、展示する予定であります。そのときに推進コンクールも予定をしております。また、会長さんとの調整ができていないので、推進コンクールのほうは未定なんですけれども、感想画コンクールのほうについては、中央図書館を皮切りに、四つの図書館で、展示をする予定になっております。ただ、南大沢図書館と川口図書館は展示する部分が少ないので、そこについては最優秀の作品だけになってしまいますけれど生涯学習センター図書館と中央館につきましては、スペースがありますので、ある程度きちんと現物をご覧いただくことができますので、また併せてご覧いただければと思います。以上です。

谷口委員～それに伴いましてご提案というんですか、今日から小中学校の「おおり展」というのを、昨年度まではそごうさんでやらしていただいた、今は撤退されたので、今年は今日からダイエーのほうでやらせていただいているんですね。それで、読書のまち推進コンクールのほうは、今年度、そこで展示されることになりまして、もし、今回こういう、読書感想画みたいなのも、そこに合わせて、展示されたら、読書感想画の応募した方だけじゃなくて大体見られる方というのは、関心があったりとか、そういう方なんですけれども、「おおり展」のほうはかなりの作品が、小中学校から上がってくるので足を運ばれる方も結

構いらっしゃるんですね。先生方も見ていただけるということなので、そういうところにもし展示していただけるなら、交渉もあるんでしょうけれども、もうちょっと広がっていくのではないかなとそんなような、ちょっとお話を伺って、思いました。

三浦会長～今後の課題ということになるかと思いますが、ある意味での縦割りのような、ひずみというようなものだろうと思うんですが、いろいろなところで絵画展というのは八王子の中でも、あるわけですけど、そういったものの横の連絡が取れるような形ができると、今お話が合ったような、いろいろな、これは「おおるり展」の入賞作品、これは読書感想画の入賞作品と、これが一堂に並べるようなそういうような形をとっていかれる方向へ、ぜひご努力をいただいて、せっかく親御さんや先生方もご覧いただくでしょうし、当然本人も見るでしょうから、そういったものが広くみられる場所をPRする面から考えてもそういった機会がどこかの場所で大きく取れるといいのかなという気も致しますので、もう一つの検討材料にさせていただくということで、検討していただければと思います。ということでよろしゅうございますか。

ほかにご意見ございますか。

その他の報告事項はございますか。

事務局（福島川口図書館長）～私のほうからは、昨年末に行われました、東京八王子西ロータリークラブさんと八王子市図書館が共催で実施しました、読書感想文コンクールについて、報告をさせていただきます。

11月末までの期間で、応募をしたところでございます。こちらの読書感想文コンクールにつきましては、学校のほうではいろいろ感想文コンクールとか、作文とかあり、激戦の中で、読書感想文コンクールを今年から東京八王子西ロータリーさんのご理解の中で、共催で実施をさせていただいたところでございます。去年やっていないで、今年初めてというものは、かなりセールスが必要かなというところを感じたところでございまして、実施しているということをご存じないという状況の中で学校さんのほうにも足を運ばせていただいて、あと、今回、ショッパーとか、新聞等でも、紹介をさせていただいたり、公立の学校以外にも、私立の学校さんのほうにも足を運ばせていただいて、今回は周知を図ってきたところでございます。初めての事業でございまして、苦労が必要かなというのを感じたところでございます。応募作品ですけども、617作品なんですけれども、初めてにしては、意外と数が集まったかなと感じたところでございます。特に小学校の

低学年が302作品ですか、学校のクラスのほうでも、クラスで参加したいよというところが意外とございまして、まとまった数が集まったところとございまして。中学校のほうは、一番下に書いてあるんですけども、西ロータリーさんのほうから最優秀賞、東京八王子西ロータリークラブ会長賞ほかには、台湾高雄市への、海外友好交流都市への海外派遣の副賞がついておりまして、それが目的じゃないかもしれないんですが、読書をしてみようという中学校の生徒さんもひろがっていったのかなと思っているところとございまして。やはり、そういうこともきっかけにして、読書環境をもっともっと広げていこうということを担当のほうも、私のほうも感じたところとございまして。二次審査なんですけれども、小学校の低学年32作品、高学年が25作品、中学生の部が28作品、合計85作品をまず一次審査のほうで、基準以上のものを選ばせていただいて、二次審査を1月10日に終了したところとございまして。その結果、各部で最優秀賞、東京八王子西ロータリークラブ会長賞等が決定をいたしまして、2月2日にエルシイ八王子のほうで盛大に表彰式をやっていきたくて考えているところとございまして。その場で、中学生のほうで、受賞された方は行っていただけだと思いますが、台湾派遣が決まった方の認証状、台湾に行ってきたくださいよという市からの認証状のほうもここで交付をしていきたくて考えているところとございまして。簡単な感想なんですけど、小学校低学年の人なんかその本を読んだことでどういふことを感じた、例えばヘレンケラーなんて言う自伝を読んだ人がいるんですけど、ヘレンケラーはすごい人だなというのをまず感じて、自己の変革じゃないんですけど、私もヘレンケラーみたいになりたいと心の中で変わっていただいたということを読ませていただいたことだけでも読書感想文コンクール行ってよかったかなと感じたところだと思うんです。私からの報告は以上です。

三浦会長～大変多くの作品をいただいた、学校さんの反応はどうだったんでしょうか。

鈴木委員～年度当初に、年間こういうコンクール等があるからどれかに応募しようかというようなそんな感じで進めると割とすっきり行くんですけど今回は途中からということもあったので、食いつきのいい学校と、そうでもなかった学校とあるような気がします。残念ながら、うちは食いつきが悪かったです。

三浦会長～来年もあるようございまして、ぜひ食いつきのいいように。

谷口委員～校長から一つ要望で、参加賞、大きい賞はいいんですけど、鉛筆

一本でもいいので参加賞があるといいかなという話を伺っています。

事務局（福島川口図書館長）～参加賞は全員にございますので、何色もあるボールペンをロータリークラブさんのほうからご提供いただいておりますので。

三浦会長～ちなみにこれがサンプルでございます。4色ボールペンです。

事務局（福島川口図書館長）～応募された皆さんに参加賞のほうはお配りする予定でございます。

三浦会長～まだこれから、表彰式が終わってからになるろうかと思えます。応募用紙には参加賞があると書いてありましたですね。

事務局（福島川口図書館長）～要項のほうにありました。

三浦会長～実はこのメンバーの中からも、2次審査に、審査員としてご参加いただいた方がおられます。感想も含めまして、山崎委員。

山崎委員～大変たくさん感想文を、実は年末にいただきまして、年明けが締切だという、大変巧みな、大学の教員は年末が暇なんじゃないかと思われて、確かに授業はありませんけれど、その間にもいろいろ、修士論文の指導とかやっていたんですけど、実はこれは大変私にとってもこころ温まる経験をさせていただいて大変感謝をしております。私は常日ごろから18歳から22歳の学生の書いたものしか見ていないんですけど、非常に、小学校の低学年の方とか、中学生、清新な感動を持って読ませていただきました。非常に感心したのは、それぞれが、一人一人が違うという、歌の文句じゃないんですが、ただ一つの花という感じで、それぞれ自分のオンリーワンだという感じなんですね。大学生ぐらいになると、みんな紋切型の書き方をするんですね。ステレオタイプ、みんな同じ問題について、ところが、どれひとつとしてそういうのはないんですね。今回見ると。それぞれに心に映じたものを素直に書いていられるような気がして、それがどうして大学に行くにああいう風になっちゃうんだらうと、これは私の自戒も含めて読ませていただいたということなんですね。そういう素直な個人個人の感動みたいなものを図書館を使って、読書で、もっともっと伸ばしていくことが必要なのかなあと思ってですね。そうすればきっと日本はもっとよくなるんじゃないかなという気がいたしました。ありがとうございました。

三浦会長～たぶん、小論文の書き方みたいな本を大学生ぐらいになると読んでますから、書き方が大体ワンパターンになっちゃうんですね。だれが書いても。子供というのはそういうものを読んでませんから、本を読んだ感想を率直に書くという、それが、子どもの感想文の良さだらう

と思うんですね。それをお感じいただけたということだろうと思うんですね。それから、穂坂参事にも審査員をお願いさせていただきました。ご感想を含めてお話をいただければ。

穂坂参事～ここに書いてあります、85作品を事務局から渡されまして、大分苦勞しましたけれど、いま、山崎先生もおっしゃったように新鮮に子供たちは表現しているなど感じました。同じ作品を読んだ子供さんもうらっしゃるんですけど、感じ方が子供さんによってずいぶん違うということを感じましたし、私どもが読んだのは、1次選考を通った方のもので、どの作品も素晴らしい作品でした。点数をつけるのもなかなか躊躇するような部分もありました。選ばれてきた作品だけあって、相当本の読んでいるお子さんなのかなという風に思いました。本を多く読んでる方というのは、感じ方というかとらえ方が違うんじゃないかと感じたんですね。本を読んでいると言うのは、感性が豊かで、読書というのは、本当に、その力をつけるなあと感じましたし、実は私自身が振り返ってみれば、とてもこんな文章は書けない作品ばかりでした。私も自戒をこめて読ませていただきました。ありがとうございました。

三浦会長～お母さん方は、こういう事業があることをご存知でしたか。

谷口委員～私たちは、ここでいただいて、そのあと、学校のほうに行ったときに、ああ、今頃来たんだと、校長はちょっと戸惑っていました。期限ちょっと経ってから各家庭に配られたような状況はありました。

穂坂委員～鈴木先生、あれですよ。学校は結構いろんなのに参加しているとか、そういうスケジュールに合わせて、人権の感想文だとか、東京都のコンクールとか、結構あるんですか。

鈴木委員～ありますね。

穂坂参事～早めに学校のほうの計画に入れるような形で、ロータリーさんが来年もまたご協力いただけるということであれば、そういう形でやっつけば学校のほうも取り込んでくれるんじゃないかなと。

三浦会長～私も、両方の会長ということで、非常に微妙なところなんです、来年の会長も、やるという風にはっきり言い切っておりますので、たぶん本年度内までのうちに事前に時期の校長会の会長さんがお決まりになったところで調整をさせていただくようなお話でしたので、そうするともう少し広がりが出てくるのかなあと。私、617作品を読んでいる中の一人として読みまして、まる2日間朝10時から夕方5時30分くらいまでですかね、私一人で読んだわけではないですが、会員、図書館の職員さんにもお手伝いいただいて、最後には目が真っ赤

になるような感じで、皆さん本当に真剣に読んでいただけたという、読んでいながら、感動をしてしまう。その結果、低い点数がつけられないという弊害が一方ではあるんですが、それでも子供の感動した気持ちが素直に表れる場面を今後とも続けて作っていくことが大変重要だなということを感じた次第ですので、ぜひ皆さん方からもこういうやり方があったらいいんじゃないかというようなことがありましたら来年度以降の参考にさせていただきたいというように思いますのでよろしく願いをいたします。

鈴木委員～単純に応募数を増やすのであれば、共催のなかに校長会を入れてしまうとか。

三浦会長～それは協力という形で要綱の中には入っています。中学校長会と小学校長会の名前は入れさせていただきました。

草刈委員～先ほど、読書感想画が図書館を回るといっていたんですが、ぜひ、教育センターも校長会、副校長会がある期間などに最優秀だけでもあるとインパクトがあって、「これか」とか、中学校の校長先生は、副賞までついていて、たくさんのプリントの中にまぎれてさがしだして、あったなって、話でも聞いているけれど、実際に心を打たれるようなものが。図書館に、たぶん、校長先生方、副校長先生が行く機会はないので教育センターだと先生方が集まる機会に展示ができていれば、さらっとみて、興味を持って心にとめてもらえるといいかなと思いますので、連携してできたらと思います。

三浦会長～来年以降、ぜひよろしく願いいたします。ちなみに、台湾高雄市に派遣する子供たちに、「ジュニア国際交流フレンド」という命名を教育長からしていただく形になっています。ここには書いてありませんけれど、読書感想画のほうからも、最優秀と、ロータリークラブ会長賞の2名の子供は、こちらのほうの、感想文のほうの子どもたちと一緒に派遣しまして、計7名が台湾高雄市へ派遣をされる、という形になります。親御さんの中には、当初の、入賞されましたという連絡を事務局のほうから電話でしていただいて、最近親御さんのほうにしていたいたんですが、親も一緒に行っちゃいけないのか、というご意見もあったようでございます。大変、人気は高いようでございまして、このあと、帰ってきた感想文等々、経験してきた、体験をしてきたことの感想文等々もこういった子供たちには書いてほしいと思っておりますので、それも機会がありましたら、皆さん方にもご覧いただけるかと思えます。

では、この件につきましてはよろしゅうございましょうか。

三浦会長～報告事項が終わりました。次回の日程でございますが、事務局から
お願いをいたします。

事務局（福島川口図書館長）～次回なんですけれど、今年度につきましては議
会等も始まりまして、できましたら4月16日（火）あたりはいかが
でございましょうか。・・・・（日程調整が行われた）

三浦会長～それでは、平成25年度第1回の会議は4月16日（火）に開催い
たします。以上をもちまして、本日の会議を終わります。ありがとう
ございました。

18時50分閉会